

埼印エだより

第90号 平成16(2004)年2月29日発行

発行：埼玉県印刷工業組合広報委員会 ☎360 0031 熊谷市末広1 63 ☎048(524)4186 FAX 048(524)7680

URL <http://www.saipia.net>

Eメール saiinkou@orion.ocn.ne.jp



氷川神社節分(さいたま市)

写真協力：さいたま市役所 市長公室広報課

[用紙提供：埼洋会]

平成16年新春賀詞交歓会を開催

本年1月17日、「ラフレさいたま」において平成16年新春賀詞交歓会が、浦和支部の企画で開催された。

今回は3部構成であった。第1部は岩淵常務理事の司会で、「CTP導入の現状・オンデマンド印刷の魅力」と題して、大日本スクリーン製造㈱の桜沢正彦氏並びに㈱メディアテクノロジー・ジャパンの佐々浦展氏との両氏による講演が行われた。

次の第2部は恒例になりつつある落語鑑賞で、古今亭菊之丞師匠による「幾代餅」で初笑いした。

第3部は会場をさくらの間に移し、櫻井専務理事の司会で交歓会が始まり、佐藤副理事長の開会のことばにつづき、新理事長から新しい年への抱負を込めた次の挨拶があった。「ご来賓の皆様にはお忙しい中ご臨席頂きありがとうございます。イラク問題、北朝鮮問題、BSE・鳥インフルエンザウィルスによる食料安全保障問題などの不安な社会情勢の中にあって、業界を取り巻く環境は依然として回復の兆しが見えず、戦後3度目の不況業種指定を受け、本年3月まで2度の延長がなされる程の厳しい状況にある。他方前段の講演にあったCTPなどの新鋭機の導入・普及は印刷価格の構造変化を余儀なくするものであり、我々にとっては難しい選択であり、業界全体もパイを減らす遠因にもなっている。もとより現下の価格破壊は我々自身のモラルの問題であり、自戒が求められているが、特に官公需に表れていることから、最低制限価格制度の導入やデザインコン

への有料化などの実現に努力しているところである。

埼玉県の印刷出荷額は2,200億円で東京に次いで全国で2番目となっている。これは大手或は他県企

業の工場が埼玉県に集積している結果で、実需の出荷額は約700億円と見られており、そのうち組合員の出荷額は330億円前後と、半分にも満たない状況にある。

一昨年、埼玉県中小企業団体中央会のご理解とご支援により、埼玉県で開催された全国大会用の印刷物の全てを当組合が一括して共同受注をし、皆さんの協力を得て完納したことはご承知の通りです。更に昨年6月から、ここに居られる中央会の下境専務理事の県内事業者育成という高い見識のもと、新しく発生する印刷物は当組合に発注することをご方針をいただき、県内八口-ワ-ク向け定期刊行情報誌の業務を受託し、参加表明のあった8支部持ち回りで作業を進めることとし、現在は行田支部が受け持ち、次は深谷支部が担当することになっています。

このような共同受注の実績を積み重ねる中で一昨年来、県に対して諸懸案事項の働きかけをしていますが、昨年就任した上田知事に対しても大手あるいは他県企業に発注している印刷物の県内企業への優先発注を限りなく進めていただくことや製造物請負制度の導入などについて中央会さんを始め関係者のご支援を受けながら、全組合員が団結して共創ネットワークを構築しつつ働きかけを強めていきたい。

内政面の組合活動については、現在三つの事業を二重作業・環境委員長を中心に同時進行させています。

一つは職場の安全衛生意識の高揚と災害ゼロ職場の確立を目指す『たんぼぼ計画』事業、二つ目は高齢者の就業支援事業である地域高齢者能力活用職域開発支援事業、三つ目は埼玉県から委託を受けた、障害者の就業促進を目指す障害者雇用啓発トライアル事業の3件ですが、皆さんの協力により順調に推移しています。

e-japanへの対応については、昨年講習会を開催しましたが、多くの組合員が参加されました。この課題への関心の高さを示すものであり、この6月からは電子申告が始まる見通しで、次にくる県の電子入札への対応に関しても正面から取り組み、組合員の有利性が確保できるよう対処していきたい。さらには、関連業界の皆さんとの連携をより一層深め、運命共同体として、関係者全員の『気』をより充実させ、共々栄えていくように一緒に努力していきましょう。

最後に、組合員の皆さんにはすでにFAXで要請してい



バックカーボン・ナンバーリング印刷

カッターミシン・伝票丁合

信頼と技術、ガッツなパートナー深谷カーボン



株式会社 深谷カーボン

代表取締役 深町 満夫
ホームページ <http://www.ksky.ne.jp/~youichi/>

電話 (048) 520-1649(代)

FAX (048) 520-1410

埼玉県熊谷市上川上952-5





ますが、悪質金融業者に関する県の要請については、印刷人綱領にあるとおり平素から公序良俗に反しない行動をとっていると思いますが、そのような業者からの発注には特段の注意と排除に協力をしていただきたい。」

続いて新井副理事長よりご来賓の紹介が行われた。来賓として挨拶にたった埼玉県中小企業団体中央会専務理事下境英夫氏より、「昨年未の政府の発表では景気は上向きつつあるとしていますが県内の集まりで何う話では、まだまだ厳しいとの話が多いことから、県内には良い気配は感じられない。私ども中央会大久保会長の年頭挨拶の中で今年の目標の言葉は『決断のとき、見極めよう自らの進路』でありました。会長の意とするところは、現在のようなめまぐるしく変遷する経済社会にあって、企業はどう生き抜いていったらよいのか、それを立ち止まって考えている暇はない。自分の進路は自分で見極めなければならない、それをしっかり見極めて決断し、実行しなければおいていかれるというものです。

皆さんの印刷業界も10年前の自分の企業の実態と現在を比較してみると、相当変化していると思う。世の中の動きに合わせて、それぞれの企業は改善や脱皮をしながら成長を続けてきているはずであり、これからの10年も同じである。特に技術の進歩はスピードが早いいためそのスピードに追いつけず、経営環境は極めて厳しくなっており、その中で利益を上げるにはどうすべきかが焦点になる訳ですが、皆様方の知恵と組合員間の情報交換によって助け合って、進んでいただければと考えます。

私ども中央会も皆様方のお役に立つよう努力をしておりますが、残念ながら国、県の財政が一段と厳しく環境が一変している。財政を安定させるためには会員の維持増強が不可欠として努力しています。中央会をよ

り活用していただき、中央会と各組合が一体になれるようご支援とご協力をお願いしたい。理事長の挨拶の中にありましたとおり県はまだ多くの印刷物を発行している。『彩の国だより』『議会便り』などは、県民一人一人が手にするものであり、県内印刷業者が印刷してお届けするのが本来の姿であると考えており、理事長の意見に同感である。

私なりに知事に申し上げたいと思っております。上田知事はかって中央会傘下組合に所属しておられ、組合の実情を理解できる方だと思つので、組合と一緒に行動して行きたい。」との心強いごあいさつをいただき、つづいて地元選出の県会議員である宮崎栄治郎氏から励ましのごあいさつをいただいた。その後、吉田副理事長から参加関連会社の紹介、関連会社を代表して埼玉会浅海会長があいさつに立った。そして中村顧問の乾杯で懇親会もようやく本番となった。浦和のきれいだころによる歌と踊りを堪能しつつ、懇親がにぎやかに行われる中、地元浦和支部の荒井支部長を先頭に支部のみなさんが壇上にあがり、参会者と組合員のご多幸を祈念して中締めが行われ、二重作副理事長の大締め、大川副理事長の閉会のことばで交歓会がお開きになり、散会した。



豊かな新世紀を拓く！

— 新しい時代の『企業づくり』の
アドバイザー —

- 印刷関連機器・材料販売
- Macintosh・Windows出力・教育・保守サービス
- ITビジネス支援事業



設楽印刷機材株式会社

Human Balance
SHITARA

本社 〒379-2154 前橋市野中町158-1 TEL027(261)7000(代) FAX027(261)7700
宇都宮営業所 〒320-0843 宇都宮市花園町17-1 TEL028(633)8324(代) FAX028(635)8385
埼玉営業所 〒360-0012 熊谷市上之540-15 TEL048(521)9851(代) FAX048(527)0562

埼玉県印刷工業組合・埼玉県印刷工業組合青年部共催

「e-japan が迫る < 電子入札 > セミナー」

11月22日(土) マロウドイン熊谷で全印工連特別顧問竹原悟氏をお迎えして、「e-japan が迫る電子入札」のセミナーが開催された。若い人を中心に約40名が参加し、関心の高さを伺わせた。竹原氏の熱心な話に、参加者全員も気を抜くことなく勉強した。

e-Japan が迫る電子入札

印刷の業態変革を誘発するデジタルネットワーク社会

全印工連 特別顧問 竹原 悟

e-Japan が目指すものは「デジタルネットワーク社会」の構築である。だから「e-Japan による電子入札対応」は業態変革のチャンスでもある。e-Japan に対応した(あるいは、しようとしている)顧客に対し、印刷企業は何をサービスできるのかを考えることが、喫緊の課題となった。

「e-Japan 戦略II」が迫る印刷業の変革

「5年以内に世界最先端のIT国家を作る」という第2期の「e-Japan 戦略」は、IT 利用による「元気・安心・感動・便利」社会の実現を目指している。そのためには、「2つの改革」が必要であろう。「2つの改革」について、文中の「国」を「企業」に置き換え対比したのが下表です。政府・自治体は、「24時間、365日、ノンストップ、ワンストップ」の行政サービス実現に向かって動き出した。印刷企業も「24時間、365日、ノンストップ、ワンストップ」の印刷(付帯)サービスに向かって動き出す必要がある。

表 e-Japan II 「2つの改革」と印刷企業の対比

【e-Japan II】 《2つの改革》	【全印工連 post2005素案】 《印刷企業2つの改革》
<p>〔1〕構造改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITを駆使して既存システムの無駄を排除し、経営資源を有効活用 ・わが国の競争力が向上し、経済の再活性化が可能 <p>〔2〕新価値創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改革による“果実”の再分配により、新しい産業や市場を創出 	<p>〔1〕構造改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITを駆使して既存システムの無駄を排除し、経営資源を有効活用 ・わが社の競争力が向上し、経営の再活性化が可能 <p>〔2〕新価値創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造改革による“果実”の再分配により、市場の深耕 ・開拓や新技術導入に挑戦し、業態変革を目指す

電子政府の仕様書が読めるか

各省庁が共通して保有する行政情報のうち、白書・年次

報告書、調査報告書およびこれらに類するものを対象に、行政情報システム各省庁連絡会議幹事会は「白書等データベースの統一的な仕様」を取り決めている。それはSGML (JIS4151)を採用することになっているが、仕様書にDTD、文書インスタンス、HTML、CSV、SYLKなどコンピュータ言語が出てくる。さらに、HTTP、FTP、TCP/IPなど通信ネットワーク用語が出てくる。(ごく近い将来、SGMLはXMLに変化するものと予想されている)。そして印刷媒体制作のデータを光媒体や通信媒体に変換出力することが求められている。言い換えればワンソース・マルチユース対応ができるか、ということである。

コンテンツビジネスに占める印刷産業のポジション

デジタルネットワーク社会の中で、印刷企業は「情報の中身の編集能力=コンテンツ編集力」を通じて、顧客の業務やこれからの課題の全体像が見える唯一の立場にある。コンテンツビジネスとは、「情報の中身を顧客に提供する一連の業務(創作 企画制作 編集 組版・集版 媒体制作 流通)を行うことで利益をうる事業」と定義できよう。コンテンツ関連業務のバリューチェーンと情報の表現形式との関係を図化して考えてみると、1つのマトリックスを作ることができる。このマトリックスから、伝統的印刷業は、コンテンツ関連業務の中で好位置を占めている(ニッチを持っている)ことが見えてくる。

想定されるバリューチェーンの中で、編集と組版の違いを考え、印刷業のポジションを考えてみた。編集は創作物の「解釈・加工」の要素が強く、「組版」では書体や網点への「置換・加工」の要素が強い。

ビジネスモデルの違いを模型的に考えてみると、組版、集版や刷版(版)用紙は伝統的な印刷業の守備範囲です。これに対し、編集、オーサリング、光媒体、通信媒体に力を入れているのが先進的な印刷業で、選択的に取り組んでいる。その中で成功事例が少ないとはいえ、SGML/XML、マルチメディア制作など、ビジネスモデルを確立している企業がある。さらに少ないとはいえ、コンテンツ創作から流通まで、バリューチェーンを拡張した印刷企業もある。ここでは伝統的な印刷業とは全く異質なモデルが必要です。

コンテンツ創作や流通ビジネスに対応できる能力を持っていないが、バリューチェーンを拡張しようという「志」があるなら、ビジネスパートナーとの相互補完のネットワーク構築は、検討するに値する。

業態変革のチャンスだ

このほど印刷産業は、経済産業省の紙業印刷課の所管から文化情報関連産業課（通称メディアコンテンツ課）に変わった。メディアコンテンツ課は映画産業、音楽産業、アニメ産業、ゲーム産業、出版産業とともに印刷産業を所管していることから、「印刷産業はコンテンツがらみの産業」と見ていることが判る。e-Japan 戦略対応は、伝統的印刷業が業態変革を起こす千載一遇のチャンスだといえよう。

企業内のデジタルネットワーク化の道筋

「現状」は、会計処理、見積計算、販売管理、工程管理といった各種の業務を、それぞれ個別のソフトで処理しているケースが多い。言い換えれば、バラバラなシステムが併存しているわけだが、計算業務や帳票作成、出力もコンピュータがやってくれるので、導入前に比べて、それなりの業務コスト削減にはなっている。

先進的な印刷会社が近年取り組んでいるのが「統合化」である。「現状」では、得意先名、製品名、担当者名あるいは製品仕様など、各業務ごとに別個に入力している。「統合化」で、社内各部門で使っているアプリケーションソフト同士で情報を共有できるシステムに進化させることができる。こうすることによって各部門、各業務間での情報伝達を伝票レスにすることができる。

また、一度入力したデータは、さまざまな業務に共通して使えるし、再入力の手間を削減し、再入力時に起こる入力ミスによるトラブルや余分な作業を排除して、業務コストを節減できる。営業であれば、伝票作成のために使われる時間を大幅に減らして、本来の営業活動の時間を増やすことができる。

さらに重要なことは、必要な情報が必要な部署で必要なときに得られるようにすることである。それが「オープン化」なのだ。統合化されたシステムとインターネットを利用して、ノートパソコンや携帯電話を端末として利用できるシステムを構築することができる。特に会社外での行動が多い営業担当の業務への利用は極めて効果的である。

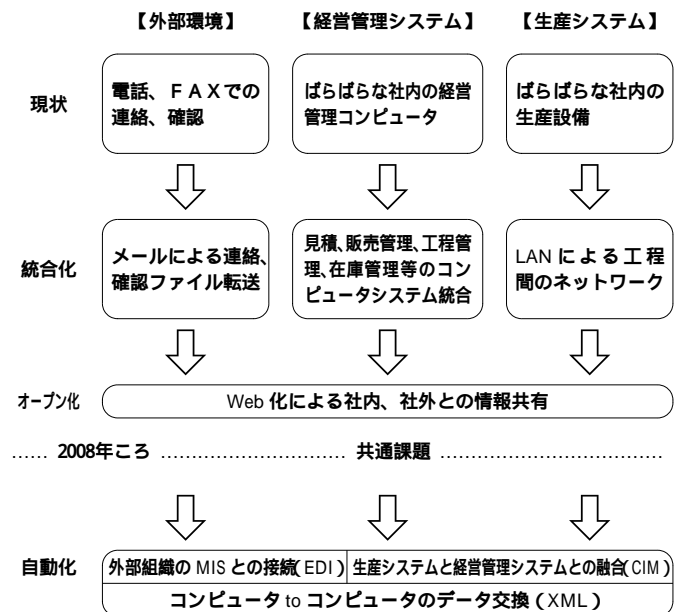
オープン化は2008年か

この「オープン化」の時期は、e-Japan 戦略や CIP 4 / JDF の進捗状況から、2008年ごろと推定できる。

統合化の次のステップは「自動化」である。顧客を含む外部企業のコンピュータシステムと直接つないで、コンピュータ to コンピュータで情報をやり取りする段階である。Web を使って情報共有する段階では、リアルタイムでの情報共有の効果は非常に大きい。しかし、人間がその情報にもとづいてコンピュータに入力するなりの働きかけをしなければ、次の業務がコンピュータで処理されることはありえない。

図の EDI 化は、例えば常備しておく紙やインキについて、自社の在庫管理をしているコンピュータのデータがある一定量以下になれば、そのコンピュータが自動的に発注先のコンピュータに一定量の発注を行うのです。このような仕組みを利用することによって、人間の介在がなくてもコミュニケーションができるようにして、大きな合理化効果と迅速な業務の遂行を可能にする理想的な EDI となるのです。

図 デジタルネットワーク発展のプロセス



(注)* : 更なる自動化の要素 ・品質標準化=業界標準カラー。
 ・データフォーマット標準=PDF、JDF、XML。
 ・データベース。
 ** : 自社の経営管理コンピュータ (MIS) が中核となる。

JDF を利用した CIM は、コンピュータ to コンピュータでの情報交換で実現する自動化である。CIM の場合には、生産設備の制御データと管理情報システムのデータが一元管理されて取り扱われることになる。

「自動化」の推進に当たっては、更なる標準化が必要である。官公需の電子入札用仕様書が問題になっているが、在来どおり人間が介在したシステムであれば、どんな仕様書でも問題は起きない。しかしコンピュータ to コンピュータになれば大問題となる。電子入札用仕様書の標準化をしておかないと、印刷産業全体が大きな損失をこうむる危険性がある。同様に、印刷品質の標準化（業界標準カラー）、データフォーマット (PDF、JDF、XML) の標準化が達成目標になる。

デジタルネットワークは「統合化」から「オープン化」、そして「自動化」へと進化するが、全てが満たされなければならないということではないし、すぐにそれをしなければならないということでもない。重要なことは、社長がビジョンを描いて自社なりのロードマップを作って、一步一步すすめることであろう。

障害者雇用優良事業所見学会を開催

11月6日(木)県の委託事業である障害者雇用啓発トライアル事業(普及啓発)の一環として、障害者雇用の現状と課題などを探るため、新理事長を始め組合3役員及び事務局で川越市に所在する(株)西友サ・ビス殿の見学会を実施した。

見学先の(株)西友サ・ビスは西友グループの障害者雇用率(法定雇用率1.8%)を達成・確保するために1992年に認定された特例子会社であり、従業員は約80名でその半数が障害者の方々であった。

仕事の内容は、畜産物の包装加工、広告などの製作及び印刷製本、制服のクリーニング、文書類の仕分け発送、マ

サ・ジ、人事・経理・総務の事務代行など、多岐にわたっており、障害の程度、特性を考慮して配置されていた。また、エレベーターを始めとする機械設備、廊下、トイレなどは、障害者に対する配慮が成されており、参考となる見学会であった。

*特例子会社とは

親会社に係る要件と子会社に係る要件を満たした場合に限り障害者雇用促進法上「親会社と子会社を同一の事業主体として取り扱う」子会社の特例扱いを認め、雇用率制度を適用するもの。

安全衛生に関する他県企業の見学会を実施

11月7日(金)新潟県印刷工業組合の代表企業である(株)第一印刷殿を新理事長以下組合三役を含む「たんぼぼ計画」運営委員会のメンバーが訪問、見学会を実施した。

途中新潟市内に所在する新潟県印刷工業組合事務局を表敬訪問し、併せて新潟県工組の高見労務・環境委員長から「製品環境情報シート」について、作成の経緯並びに方法、運用実態など詳細なお話を伺った。

(株)第一印刷では、堀社長以下同社幹部の出迎えを受け、

会議室に於いて会社の概要、安全衛生活動の状況などについて、懇切丁寧な説明を受けるとともに質疑応答が行われた。その後、関連会社を含む全工場を見学したが、各職場で整理整頓が行き届いているとともに、その場にいる従業員が大きな声で挨拶をし、しかも関連会社の人たちも同様な行動が実行されており、グループ全体がよく訓練されていると実感するなど、参考となる有意義な見学会となった。

全国産業安全衛生大会(2003 in 名古屋)開かる

第62回(平成15年度)全国産業安全衛生大会が去る10月29日(木)名古屋市総合体育館レインボホールに於いて、全国から12,000名強の産業人が参加して開催され、当組合から新理事長、二重作副理事長、櫻井専務理事の3名が参加した。これは当組合で現在活動している「たんぼぼ計画」事業の一環として参加したもので、労働災害や健康障害の撲滅を目標に毎年開かれているものです。

大会では、中央労働災害防止協会奥田 碩会長の大会式辞、坂口厚生労働大臣ほかの祝辞に続いて、顕功賞表彰、

緑十字賞表彰など各種表彰が行われ最後に、労働災害防止の原点である、働く者の安全と健康の確保は最優先されるべきものとし、「安全なくして生産なし」をスロ・ガンに経営トップ自らが率先垂範し、第10次労働災害防止計画の「安全」「健康」「快適」な明るい職場作りを目指し努力する旨の大会宣言を採択して閉幕した。

なお、11月13日(木)には埼玉県安全衛生大会が埼玉会館小ホールで開催され、新理事長、櫻井専務理事、荒井・新保両委員及び事務局が出席した。

埼洋会との第3回情報交換会を開催

11月7日、「たんぼぼ計画」の事業である県外事業場見学会(新潟県)の後、岩室温泉 ぼてる大橋において埼洋会との第3回情報交換会を開催した。

席上、新理事長から「平素のご支援、ご協力と今回の企画に感謝申し上げます。ご承知のとおり政府の景気動向や大企業の間接決算発表では景気が上向きに転じているとしているが、我々の業界ではその実感はなく不況業種指定も年末まで延長されるなど、依然として低迷状態が続いている。また、製紙メーカーの決算見通しでは、相当な増収・増益になるようだが、昨年の値上げには大いに不満が残る結果となった。

今日は新潟県工組で製品環境情報についての話を聞き、内容もさることながら、このシステムを立ち上げる過程で紙業界との共同作業で完成し、スタートさせていることは、

この会が目指すものであり参考になったのではないかと。このような作業を通じてお互いを理解し、運命共同体として現下の難局を打破してゆきたい。中央会様の共同受注については、順調に推移しており、ご協力にお礼申し上げます。本日の会が低迷脱却のための有意義な情報交換会になるようお願いする」と挨拶。

埼洋会浅海会長より「平素のお礼と情報交換会運営にご協力いただき感謝申し上げます。

新潟県工組さんでのお話は大変参考になった。このような協調関係が出来るよう努力してゆきたい。紙の市況については目立った動きはなく、平易に推移している」と挨拶があった後、個々の情報交換に移り、お互いの意見をぶつめあった結果、テーマを決めて活動して行くことを再確認して散会した。

青年部新年会 盛大に開催される

平成16年2月7日(土)・8日(日)
秩父市 「だいます」

2月7日・8日、恒例となった青年部新年会が秩父市「だいます」において、埼印工新理事長にもご参加いただき盛大に開催されました。

定時の6時半より、間庭会長の挨拶によって開会となりました。例年の会場から「だいます」に場所を変えての開催に因んで、「不景気ですが、青年部会員も気分を入れ替えてがんばりましょう。」との挨拶でした。

次に新理事長より「青年部が活発な団体は、会全体が発展する。みんなに期待している。」との励ましのご挨拶をいただきました。またご挨拶の中で、請負受注に向けての県とのやりとりについて、印刷業界の中国進出についてなど、出席者にとって非常にためになる情報をお話していただきました。

続いて青年部OBでもある櫻井専務理事の乾杯で開宴となりました。

豪華な食事とお酒に舌鼓を打つ中、新入会員挨拶、企業アピールも兼ねた会員自己紹介タイムへ。会員それぞれ個性あふれる挨拶となりました。その後、豪華商品(秩父の名産品)をかけてピンゴ大会が行われるなど、イベント盛りだくさんでした。仕事のこと、家庭のこと、趣味のこと、思い思いの話題で盛り上がり、秩父の夜はふけて行きました。

た。

仲間作りという意味において、青年部の行事というものは大変有意義だと思います。この場で知り合った仲間たちと協力し合い、競い合い、お互いに成長してゆきたいものです。

尚、今回参加された会員は以下の通りです。

間庭印刷 間庭正記、大同印刷 飯田一義、擴文社印刷所 伊古田俊、太洋社印刷所 市川博也、高橋印刷製本 高橋徹、長谷川印刷 長谷川幸司、三興社印刷所 大川正行、秀明美術印刷 二重作和久、たつみ印刷 新道行、今津印刷所 今津聖之助、文林堂印刷所 野坂弘幸。

以下 賛助会員(社名のみ)

永田紙業、深谷カーボン、フジフィルムグラフィックシステムズ、吉岡、大門商会、ハイデルベルグジャパン、サカタインクス、埼玉クスダオフ機材、三菱重工東日本販売

以下 協賛会員(社名のみ)

プロセスWELL ラフト資材、櫻井印刷所、設楽印刷機材、三共社印刷所

以上(順不同、敬称略)

総務 三興社印刷所 大川正行



新しい扉をいっしょに開けませんか?

モリサワ

東京本社 〒162-0822 東京都新宿区下塩比呂2-27 Tel.03-3267-1231

<http://www.morisawa.co.jp/>

これからは、
フォント、外字、データベース、自動組版…
すべてWEBブラウザ上で解決!

WEB時代が求めた、
MDS
モリサワ・ドキュメント・ソリューション

多彩なデータ活用を実現する

XMLデータベース

MDS-XMLDB NEW

XMLのデータベースエンジンにメディアフュージョン社の「Yggdrasil(イグドラシル)」を採用。高速検索をはじめ多彩なデータ活用を実現します。WEBブラウザ上で入力が入力、オペレータがXMLを意識しない環境を提供します。

XMLデータベースから自動組版へ

自動組版システム

MDS-B² NEW

MC-B²へのXMLインポート/エクスポートを実現するB²-xml&B²-auto。外字を含むXMLデータベースから自動的に組版作成を可能にします。また、索引自動加工のための周辺ソフトもセットされています。

WEBで外字をフル活用できる

外字ツールセット

MDS-GAIJI NEW

多くの外字を扱ってきたモリサワのノウハウを結集、印刷用途に耐える高品質かつ豊富な外字セットを用意。外字入力・データベース管理・WEB、印刷までをシームレスに運用できます。

第55回中小企業団体全国大会開かる

平成15年10月30日(木)東京・渋谷公会堂で

平成14年の第54回大会は当地埼玉県で実施されたが、節目の55回大会は去る10月30日(木)東京(渋谷公会堂)で、全国から2300名の出席者を得て開催された。

「我が国の経済状態は非常事態。金融面においては公的資金の注入を受けた銀行全体がこの1年間に中小企業向け貸出額を5兆6000億円も減少させるなど、中小企業金融は極めて厳しい状況にある。(この中で)倒産件数は、バブル崩壊後最悪の19,458件を記録した。(中小企業の)閉業率は低下を続け、完全に閉業率と逆転した。...今もっとも必要なことは痛みに苦しみ、将来に強い不安を抱いている中小企業が元気を出して頑張れるよう、デフレ経済からの脱却、景気回復策をうち出すことである。...」(決議・宣言前文より)と悲痛な叫びをあげたが、次の13の決議を採択して、政府に実行を迫った。

- 1) 劇的な景気対策、デフレ対策の即時実施
- 2) 中小企業対策予算の抜本的拡充

- 3) 中小企業連携組織対策予算の大幅拡充と組合法等の改正
- 4) 中小企業のすみずみまで行き渡る金融対策の実施
- 5) 消費税の引上げ議論反対、中小企業支援税制の抜本的強化
- 6) 信用組合に対する支援の充実・強化
- 7) 中小企業のIT化推進支援策の充実・強化
- 8) 中小企業に配慮した労働政策の実施
- 9) 若年者に対する産業教育、就業対策の充実・強化
- 10) 環境・リサイクル対策支援の拡充
- 11) 魅力ある中心市街地形成と中小商業・サービス業の活性化支援強化
- 12) 不当販売の防止、下請取引の適正化等公正取引の強力な推進
- 13) 中小企業並びに官公需適正組合への官公需発注の増大実現

「個別移動相談会」のご案内

当組合で実施しております「地域高齢者能力活用職域開発支援事業」の一環として、「個別移動相談会」を設けることになりました。特に高年齢の従業員の方で、社会保険労務士に聞きたいこと(年金のこと、医療保険・雇用保険のこと、仕事のこと等)がありましたら、希望場所・時間

をご記入の上、事務局までFAX(048 524 7680)にてご返送ください。時間決定後ご連絡申し上げます。専門の立場からの知識・経験を生かした助言が無料で受けられます。この機会にお気軽にご相談下さい。

	場 所	開 催 日	開 催 時 間		場 所	開 催 日	開 催 時 間
浦和	関東図書(株)	3月11日(木)	午後4時~6時	行田	三共社印刷所	3月2日(火)	午後4時30分~6時30分
大宮	秀明美術印刷社	3月10日(水)	午後4時30分~6時30分	熊谷	三興社印刷所	3月8日(月)	午後3時~5時
鴻巣	アサヒ印刷(株)	3月1日(月)	午後4時~6時	深谷	たつみ印刷(株)	2月26日(木)	午前10時~12時
川越	六三四堂印刷(株)	2月27日(金)	午後4時30分~6時30分	秩父	擴文社印刷所	3月1日(月)	午後2時~4時
飯能	文化新聞社	3月9日(火)	午後5時30分~7時30分				

よいものだけを...

ムトウユニパック

MUTOH UNIPACK Co.,LTD. TOKYO

さいたま/埼玉県さいたま市大宮区堀の内町1-698-1 ☎048(647)6100 FAX048(644)4414
 本 社/東京都江東区永代1-7-12 ☎03(3642)1141 FAX03(3643)6654
 URL:http://www.mutoh-u.co.jp

機 材 部
Total Supply for Print
写真製版機材・インキから印刷機まで全ておまかせ

写真製版部
Assistance for More Comfort
一步リードした製版システム技術
未来型印刷産業をクリエイト

グラフィックアーツシステム部
Consultation for Progress
プロフェッショナルなDTP・プリプレス
Macintoshからハイウインドシステムまで
業務にあったシステム、設計から運用まで、トータルでサポート
自費出版・カタログ・社内報・会社案内・チラシなどの制作をお手伝いします。

株式会社 堀口プロセス機材

本社 群馬県渋川市1783	営業本部・写真製版部 北群馬郡吉岡町大字小倉字北田461-3 TEL (0279)23-1319 (0279)54-7575 FAX (0279)54-3553	長野事務所 長野市大字栗田16 伊麻ビル1F TEL (0262)28-1502 FAX (0262)28-3735
------------------	---	---

支部だより

深谷支部

研修・懇親会に参加して

11月18日19日の両日、深谷支部会員ならびに関連企業との研修、懇親会が催されました。

18日初穂カントリーで、日頃腕自慢のゴルファーが集合し、小春日和のな中プレイを楽しみました。特に設楽印刷機材の設楽専務はプロ並みの腕前。一同池ポチャあり、3バット、4バットは朝飯前の賑やかなゴルフでした。

夕方、老神温泉朝日ホテルへ会員の皆様、関連企業の方が全員集合し、午後6時より研修会が開かれ、埼印工組理事長より、いよいよ始まります e-japan への取り組みについて又工組の共同受注についてと、工組の現況についてのご説明があり、印刷業界の厳しい状況がひしひしと感じられました。その後楽しい懇親会は、河内屋紙株式会社山田支店長の乾杯で始まり、いろいろな情報交換をしながら、きれいどころも交えて賑やかな宴となり、二次会までへと全員参加。飯島印刷斎藤氏のプロはだしの歌声には皆うっとり聞き惚れるくらいでした。

翌朝バイキングの朝食ですが、話がはずみあつという間に時間が過ぎ、その後自由解散となりましたが、帰路名産のリンゴを皆さんへのお土産にと頂き、大変有難うございました。

この会を通して皆様の元気あふれる力と、深谷支部のこの景気はなにをするものぞ、という気概にふれ、関連企業として頼もしい限りでありました。

今回も楽しい懇親旅行に参加させて頂き誠に有難うございました。
ムトウユニパック前橋支店 岩田利雄



西部工組

西部印刷工業組合 総会・新年会報告

埼玉県西部印刷工業組合の通常総会及び新年会が2月7日(土) 上福岡の天七に於いて盛大に開催されました。当日は好天に恵まれ、組合員と関連業者を含め大勢の参加がありました。組合員の協力により総会はスムーズに終了して、楽しい懇親会へ席を移しました。米山副組合長の閉会の辞に続き佐藤組合長の挨拶があり、組合員同志の更なる結束と互いの発展を誓い合いました。そして、いよいよ高山前組合長の乾杯の音頭で楽しい祝宴に入り、終始にぎやかな盛り上がりの中で懇親を深め、有意義な1日が終わりました。
六三四堂印刷株式会社



Paper & Green Communications Company

山櫻は、紙製品を通じて
人と人とのコミュニケーションを
お手伝いします。

〒331-0814 さいたま市北区東大成町2-516
大宮支店 TEL.048-663-1982 FAX.048-663-3510
e-mail:oomiya@yamazakura.co.jp

株式会社 山 櫻

<http://www.yamazakura.co.jp>

大宮刷機会

大宮刷機会、新年会を開催す

1月9日(金) 大宮刷機会平成16年新年会が、大宮・道山閣で開催された。諸情勢厳しい中で、忘年会をパスしての新年会、左党の方々には待ち遠しい宴席とはなった。大宮刷機会としてはちょっと淋しい16名の参加者。井坂会長、二重作相談役(当工組副理事長)のあいさつ、久々に元気な姿で登場された森田顧問から乾杯の発声を頂いて、新年の宴がスタートした。かつて組合専務理事を務めた森本清光さんも久々に姿を見せて、この日「往年のつわ者、顔を揃える」の感ありというところであった。何はともあれ、「芽出度い」ことではある。大宮刷機会、平成16年の新年会風景中継の一幕。

レンタルウエス ウェス各種 印刷材料販売
作業用品 梱包用品 洗浄剤 ハンドソープ

ラフト資材株式会社

本社 東京都板橋区小豆沢4-14-35
〒174-0051 TEL 03-3965-7231
工場 埼玉県児玉郡美里町280-1
〒367-0102 TEL 0495-76-1315
URL <http://www.raft-inc.co.jp>
E-mail fwhd2901@mb.infoweb.ne.jp



I&I-Imaging & Information





大サイズ対応のゆとり、驚くべき高速性、そして安定性。この理想の総合性能が、いま、DDCPの新機軸となる。

大いなる速さ、大いなる美しさ。

BIG SPEED, BIG QUALITY

B1サイズ 高速・高安定デジタルカラーフルファーム



Luxel SPEEDPROOF 9000

富士フイルム グラフィックシステムズ株式会社
本社 〒104-8186 東京都中央区銀座7丁目10番5号 TEL 03(3572)8071
ホームページ <http://www.ffgs.co.jp>

TRAQO
ISO9001認証取得

TFTカラーディスプレイコンピュータ断裁機
NCW-D7シリーズ(160.137.116.182)

一貫生産だからできる自信と信頼

株式会社 永井機械製作所

〒332-0031 埼玉県川口市青木4-3-11
TEL 048-251-0901 FAX 048-255-4674

URL <http://www.nagaikikai.co.jp> E-mail sales@nagaikikai.co.jp



印刷機材の総合商社
KINSEISHA
CO., LTD. 株式会社 錦精社



【機器販売】

アダストリナント印刷機械総販売元
INK DRY PLUS (IR乾燥装置)

印刷機・DTP関連機器
製版・断裁・製本機械
印刷用資材(PS版・インキ・薬品・その他)

さいたま支店

◇ JR京浜東北線北浦和駅下車 徒歩15分
◇ 〒 336-0072 さいたま市浦和区領家5-12-16
◇ TEL 048-886-8781 FAX 048-886-8855

会社めぐり

「創業者の志」

株式会社 三興社印刷所
大川 正行

当社は終戦後の昭和21年、3つの印刷会社が集まって設立された会社です。3人で興したということが、社名の由来となっています。現在はオフセット印刷を中心に、総合印刷会社として営業しております。

「会社の寿命は30年」ということをよく耳にしますが、幸いにも当社は今日まで存続してきました。このことは貴重な財産であり、誇りとすべき事実です。

創業当時、戦後の混乱の中で新しく事業を始めるためには、相当な高い志と、精神的、肉体的なパワーが必要だったのだらうと思います。残念ながら、私は当時のそうした様子を知りません。「家業だから」という安易な理由でこの世界に入ってきた私には想像もつかないような、社会への、



業界への、また、家族への使命感を持っていたはずですが、

印刷業界の現在は、もはやこの場で言及するまでもないと思いま

すが、行き先の見えない混沌とした状況です。設備の低価格化や高性能化による技術の均衡、他業界からの参入。驚異的な速度で進む技術革新。ペーパーレス化、印刷設備の内省化による仕事量の減少。破壊的な価格の下落...、あげればきりがありません。今後当社がどのような方向へ進むのか。従来通りの印刷中心でいくのか。ITを駆使して情報産業路線を強化していくのか。結論はいずれにしても、大きな転換期に来ているのは間違いありません。会社の寿命が30年だとすれば、もうすぐ3回目の創業ということになります。

創業から今日まで、さまざまな苦勞や危機を乗り越えてきたであろう先輩方への感謝の気持ちは忘れてはいけません。そうした方々の努力の上に、今の自分があるのだと。その一方で、創業者達に負けない高い志を持ち、自分なりの会社のスタイルを確立すること。自分もまた新たな創業者だという強い信念を持ち、社員が誇れるような会社を作ることが、後を継いでいく者の役割なのだらうと考えています。



● 洋紙のご需要は地元埼玉の洋紙店を ●

埼玉会会員

- | | | | | | | | | |
|--|--|---|--|---|--|---|--|--|
| <p>☎ 356-0011 上福岡市福岡五六二</p> <p>(株) 吉岡</p> <p>代表取締役 吉岡 薫</p> | <p>☎ 366-0051 深谷市上柴町東五二三二二</p> <p>(株) 河内屋紙(株)深谷支店</p> <p>代表取締役 林 聖二</p> | <p>☎ 355-0328 比企郡小川町大塚一〇八</p> <p>(株) 大塚紙店</p> <p>取締役社長 大塚 良助</p> | <p>☎ 347-0066 加須市本町二二四二</p> <p>(株) カサモ関口商店</p> <p>取締役社長 関口美恵子</p> | <p>☎ 330-0004 さいたま市見沼区卸町一三三三</p> <p>溝口洋紙(株)</p> <p>取締役社長 溝口 泰男</p> | <p>☎ 361-0076 行田市天満一一五〇</p> <p>埼玉紙業(株)</p> <p>取締役社長 肥留川 徹</p> | <p>☎ 333-0861 川口市柳崎三一九一七</p> <p>石井紙販(株)</p> <p>代表取締役 石井 幸一</p> | <p>☎ 350-0856 川越市問屋町四一一</p> <p>浅中紙商事(株)</p> <p>取締役社長 浅海 廣</p> | <p>☎ 367-0047 本庄市前原一三二二五</p> <p>武正(株)</p> <p>取締役社長 武正 実</p> |
|--|--|---|--|---|--|---|--|--|

☎ 〇四九一253一四九八五

代表取締役 吉岡 薫

☎ 〇四八一572一二五二五

代表取締役 林 聖二

☎ 〇四九三一72一〇〇三〇

取締役社長 大塚 良助

☎ 〇四八〇一61一〇〇四一

取締役社長 関口美恵子

☎ 〇四八一685一〇七一一

取締役社長 溝口 泰男

☎ 〇四八一556一四四〇一

取締役社長 肥留川 徹

☎ 〇四八一261一三三三二(代)

代表取締役 石井 幸一

☎ 〇四九一224一五二一一

取締役社長 浅海 廣

☎ 〇四九五二4一二七一一

取締役社長 武正 実

人 事 往 来

10月22日(埼玉会館)
関東五県厚生年金基金運用委員会 出席 新理事長

10月23日(大宮ソニックシティ)
中央会政治連盟臨時総会 出席 新理事長

10月24日(埼玉県県民健康センター)
さいたま高齢者雇用フェスタ
出席 二重作副理事長 井坂常務理事
荒井 新保各理事 加賀谷推進員

11月6日(㈱西友サービス)
障害者雇用優良企業見学
出席 新理事長 吉田 佐藤各副理事長
櫻井専務理事 事務局

11月7~8日(新潟工組・㈱第一印刷)
埼洋会との情報交換会
出席 新理事長 二重作 吉田 新井 佐藤各副理事長
櫻井専務理事 事務局深井

11月13日(埼玉会館)
埼玉産業安全衛生大会
出席 新理事長 二重作副理事長
荒井 新保各理事 櫻井専務理事 事務局深井

11月13日(ものづくり大学)
中央会情報連絡員視察 出席 事務局佐々木

11月14日(熊谷福祉センター)
第4回役員会
第5回たんぼぼ運営委員会

11月19日(東京 ディックビル)
全印工連第4回理事会
全印政連勉強会 出席 新理事長

11月22日(マロウドイン熊谷)
再就職支援セミナー
「e-japan が迫る電子入札」セミナー

11月22日(はっかい申)
青年部役員会

11月25日(埼玉会館)
中央会金融説明会 出席 事務局佐々木

12月2日(川越 福登美)
組織委員会
出席 新理事長 佐藤委員長 井坂 萩原両副委員長
市川委員 櫻井専務理事

12月20日(ラフレさいたま)
新春賀詞交歓会打合せ・役員忘年会
出席 新理事長 二重作 吉田 佐藤各副理事長
中村顧問 櫻井専務理事 井坂 岩淵常務理事
荒井 新保各理事 事務局

12月29日(熊谷 浪漫)
青年部役員会

1月17日(ラフレさいたま)
埼印工組新春賀詞交歓会
障害者雇用啓発トライアルセミナー

1月21日(大宮ラフォーレ清水園)
中央会新春賀詞交歓会
出席 二重作副理事長 櫻井専務理事

1月21日(中央会春日部支所)
中央会印刷物打合せ
出席 櫻井専務理事 事務局佐々木

1月26日(大宮ソニックシティ)
VDT講習会

2月6日(㈱太洋社印刷所)
たんぼぼ安全衛生パトロール

2月7日(大七)
西部工組新年会

2月7~8日(秩父 だいます)
青年部新年会 出席 新理事長 櫻井専務理事

2月10日(大宮サンパレス)
中央会情報連絡員新春懇話会 出席 事務局佐々木

2月13日(熊谷 藍屋)
広報委員会
出席 新理事長 櫻井委員長 小倉 高橋両副委員長
事務局

2月13日(サンルート熊谷)
中央会北部支部交流会
出席 新理事長 大川副理事長

2月21~22日(御殿山ヒルズ)
全青協第17回全国協議会
出席 長谷川協議員

2月25日(東松山 大村製作所)
高齢者雇用管理研修会
出席 新理事長 二重作 新井 佐藤各副理事長
櫻井専務理事 加賀谷推進員 事務局

2月26日(たつみ印刷㈱)
地域高齢者能力活用職域開発支援事業 個別相談会

2月27日(六三四堂印刷㈱)
地域高齢者能力活用職域開発支援事業 個別相談会

2月27日(たつみ印刷㈱)
KYT講習会

訃 報(事務局)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

12月9日 大誠社印刷所(熊谷)
社長 四分一 広明様

12月19日 金井印刷工業㈱(本庄)
ご母堂 金井 幸子様

12月31日 錦明印刷㈱(賛助会員)
ご尊父 塚田 益男様(元全印工連会長)

編 集 後 記

「e-japan が迫る電子入札」のセミナーが全印工連技術顧問、竹原悟氏を迎えて行われ、「若い人を中心に約40名の参加があったという。自分の頭だけで考えていると、「そんな面倒な入札方式なら、我が社はこちらから願い下げだ」とタンカが出てきそうだが、企業の生命はさすがに「永遠」である。若い2世が、ちゃんとおやじの後を継いで新しいシステムに挑戦、それを自社の仕事の流れにとりこむ準備に入る。

「e-japan」は「全社的デジタル化」の仕上げを前提にする、ということであろう。印刷の前段階も、生産システムも、営業・経理システムも、ということなのだ。これを仕上げないと「電子入札」にたどりつけない。埼印工組なら、社員2名でもそれが要求される。組合にも現在変化につく変化が求められている。もって胆に命ずべし、だ。苦しいけど、それにしがみつくしかない。(SO)